

考えさせられる「ことば」

1学期ももう6月になりました。先日、群読集会があり、子どもたちには先月の学校だよりで取り上げた「やっちゃえ西谷」について話しました。思いついたことは何でもやってみよう、できないと決めないでやってみよう、挑戦してみようと伝えました。さて、どんなことを思いついてやってくれるのか楽しみです。

さて、6月の学校だよりは、毎日生活をしている中で私が出合って心に残っていて思わず考えさせられたことばを少し紹介してみたいと思います。ご存知の方もおられると思いますが・・・。

(1) 親って、自分が言っていること、やっていることが一致していないのが問題だと思います

このことばは、京都府亀岡市で発行されている子どもが書いている地域新聞の中の相談コーナーに載っていたことばです。「最近私が注意したり、叱ったりすると矛盾を的確に突いてくる5歳の娘に閉口しています」と、ある親からの相談に、編集している子どもが答えたことばです。さらに、「俺に打たれたりして自分を見つめて直してください」と、ことばが続きます。私にも子どもがいますし、かつて担任した子どもたちもたくさんいます。ふり返ると決して褒められた大人ではなかった（今もそうですが・・・）と反省しなければなりませんね。

(2) 子どもは学校が仕事 おとなは仕事が学校

このことばは、関東のある市の小学3年生男児のことばです。この男児が日曜日に家で「明日、月曜だから学校に行かないといけない」というようなことを言うったで、父親が「こどもは校が仕事やから仕方ないなあ」というように返したところ、その男児はこのように返したそうです。私も子どものころによくこのようなことを言われました。子どももおとなも、互いのことを理解し、ともに頑張っているところを見せ合うことが大事ですね。

(3) 親は子どものもんやけど、子どもはおやのもんやない

このことばは、タレントとしてマルチに活躍されている松尾貴史さんのお父さんが言われたことばだそうです。親からすると、子どもはいくつになっても子どもです。でも、子どもは親の腕の中から出ようとするものです。子どもの年齢とともに、親もしっかりと子離れをしないといけないなあ。子離れがなかなかできなかった私に向けられているのではないかとハッとさせられたことばです。